

報告ダイジェスト

- ・第21回社員総会開催報告 (報告1)
- ・職員勉強会報告 (報告2)
- ・東京ドームプロ野球観戦報告 (報告3)
- ・入職のご挨拶/研修報告 (報告4・5)

報告1 第21回社員総会開催報告

5月28日(土)、第21回特定非営利活動法人ぱれっと社員総会をオンラインにて開催しました。各事業ごとに2021年度総括、決算、2022年度目標、予算について審議が行なわれ、すべての議案が滞りなく承認されましたのでご報告します。(事務局 長 南山達郎)

【当日の成立状況】

2022年5月28日現在の正会員数 334名 (内訳：A会員179名/B会員141名/マンスリーサポーター14名)

《表決》 ハガキ44名 FAX18名 インターネット8名 合計70名

《委任》 ハガキ96名 FAX23名 合計119名 (※委任、表決両方提出の会員は表決を優先)

《当日オンライン参加正会員》 27名 有効議決権合計 216名 過半数により成立

2022年度事業目標

▶法人事務局/広報啓発事業

- ・中期計画スローガンのもとに、ぱれっとの各事業と関連会議の再構築に着手する。
- ・ぱれっとつうしんやインターネットを通じて問題提起の力を高める。

▶たまり場ぱれっと

- ・コロナ禍での活動を皆で創る作業を通して、ボランティア体制の再構築を図る。

▶おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと

- ・【継続】新商品の開発を通して更なる売上アップを図る。
- ・運動レクリエーションを再開し、楽しみながら心身の健康を目指す。

▶えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム

- ・ホームの基本理念の浸透
- ・外部研修や内部研修による職員のスキルアップ
- ・入居者のコロナ禍での余暇の充実
- ・ホーム2室の空室を埋め運営を充実

▶ぱれっとの家 いこっと

- ・障がいのある人の入居1名を実現し、日々の生活の具体的支援策を考える。
 - ・いこっと運営の在り方を考える年とする。
- ▶ぱれっと国際・ジャパ (PIJ)
- ・PIJとしての事業活動内容を見直す機会とする。

役員体制(敬称・所属略)

◆理事長 相馬宏昭

◆副理事長 田口雄一

◆理事 南山達郎/辻正雄/田代真紀子/藤井志保/前田大地/黒澤友貴/金子正和/米岡文士 (以上重任)

竹森浩子 (新任)

◆監事 矢崎芽生 (重任)

※役員改選において、新たに竹森浩子さん(ぱれっと親の会)が理事に選出されました。また、今回をもって、高橋知子さん、宮代幸枝さんが理事を退かれることとなりました。長年のご尽力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

テーマ: お互いを知る

報告② スタッフ只今勉強中

～職員勉強会報告～

●6月14日、ぱれっとスタッフにJICAスタッフ1名を加えた15名で勉強会を行いました。①セクション間のコミュニケーションの少なさから来る組織の一体感不足を解消し、②スタッフ同士「人となり」を知ることで普段の業務で円滑な議論ができるようになること、この2点を主な目的とし相馬理事長と南山事務局長が企画をしました。順に「ぱれっとへ入った経緯や思い」を話し、隣の人がコメントを返していき「受容とは何か」を体験することで、会の目的へ近づいていきました。

【参加者の感想(一部抜粋)】今回は受容をする側もされる側も全員が経験し、どちらも違った難しさがありました。～中略～人は理解してほしいという思いがどちらかと言うと強く、特に福祉の世界では受容をすることの方が大切なのではないかと思いました。しかし、どちらかだけを訓練することは難しく、受容をしたりされたりすることの繰り返しでお互いの立場の考えが身についてくると思います。

(おかし屋ぱれっと井上)

この勉強会の導入部分では、理事長がチームビルディング(※)に臨む強い意志と姿勢を感じ取ることができました。大規模な社会福祉法人等と比べ、組織のトップが従業員一人ひとりに直接語りかけることができるのはこの規模の組織の強みです。トップの気概を肌身で感じることはチームの一員としてやはり嬉しいもので、私の立場では「チーム全員でどんなことを成し遂げたいのか」を改めて考えるきっかけとなった勉強会でした。

(おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと所長 玉井七恵)

●訓練から身に着く「受容」の大切さ

私が学生でたまり場ぱれっとにボランティアで関わっていた当時、専門家の方をお呼びし「受容」というテーマで勉強会を継続していました。参加者はたまり場やおかし屋のボランティアが中心で、毎回30名近く数人ずつのグループの島をつくり、自分自身を語り隣の人がその人の話をフィードバックしていく手法を取りました。先生は、「実験の場ですから失敗してもいいのです」と、フラットな自分を出して欲しいと指摘しながら、肩肘張らない勉強会だったと、その当時学生で緊張していた自分が救われた記憶があります。あるボランティアから「どうしてあなたはこの勉強会に来ているの?」と聞かれ返答に困っていた時、その先生は「嫌だったら来ないわよね」と言ってくれた一言が心にストンと落ちたのが懐かしく思い出されます。

人は意外と自分を出すことで発散しているもので、気付かない内に相手の話を取ってしまう自分がいたりします。要素所でそういった指摘を受けないと気づけないものです。「相手を受容する」ことは意識的に身につけるものだと、その勉強会では学びました。

今回の勉強会はコロナの影響もあり、数年ぶりにしかも全職員が顔を合わせて最後まで参加できただけでも大変有意義でした。大変ためになったという感想を聞くことで、思い切って全職員で行なった甲斐があります。(理事長 相馬宏昭)

報告3 とうきょう やきゅうかんせん かぶしがいいしゃ さま しょうたい 東京ドームで野球観戦!(株式会社ジャックス様ご招待)

4月26日(火)に株式会社ジャックス様のご招待で、東京ドームで行なわれた「北海道日本ハムファイターズ対オリックスバファローズ」の試合を観戦させていただきました。

●様々な楽しいプログラムと感想

球団の選手達が練習しているのを見学したい人は一足先に球場に入り練習を見学しました。

「いつもは見られない選手たちの練習している姿が見られて楽しかった。」
(照井美貴さん)

ジャックス様から頂いた帽子とリストバンドを身に付けて着席すると、日本ハムの応援団になった気分、気持ちが高まります。

そして希望者はベースランニングという、実際のグラウンドを一周走らせてもらう体験も出来ました。

「お母さんと一緒にベースランニングを走った。広い所で走るのが気持ちよかったです。母も楽しんでいてよかった。また機会があったら走りたい。」
(吉井彩香さん)

試合前にはアイドルグループ「INI」登場のサプライズもあり、歌とダンスで東京ドームのお客さんを魅了しました。

そして今回は始球式で投球をするという大役をおかし屋ぱれっとの向井滉佑さんが担当しました。

「投げる前は緊張して、上手く投げられたらいいなと思っていた。でも、始球式の前に練習したおかげで上手に投げられて楽しかった。お母さんやお父さんに格好良かった、上手かったと言ってもうれしかった。始球式の前の練習もすごく楽しかった。」 (向井滉佑さん)



【始球式で投球する向井滉佑さん】

いよいよ試合が始まると一球ごとにハラハラドキドキして、応援している北海道日本ハムファイターズが優勢になると周りの人たちと一緒に盛り上がりました。

●初めて参加した感想

今回は私がおかし屋ぱれっとに入ってから初めての野球観戦でした。野球観戦も小学生の頃に行ったのが最後だったのでとても懐かしく、野球少年だった頃の記憶が蘇ってきました。

やはり、生で観戦する野球はとても迫力があって楽しかったですし、ご家族と一緒に居る時に見せるメンバーの人達のためにも幸せそうな表情が心に残りました。

ご招待いただきました株式会社ジャックス様に感謝を申し上げます。

(おかし屋ぱれっと 井上ムハンマド)